

ヤクザについて

高校時代に一人で旅行していて、夜行列車でヤクザのおっさんと同席したことがある。もう見るからに隅すまから隅までヤクザというタイプで、その隣りにはもう隅から隅までヤクザの情婦というタイプの女がいて、その向いに僕が座っていた。べつに好きこのんで僕がその席を選んだわけではなく、向うが勝手に僕のいる席に来て座ったのである。僕は気の弱い少年だったからどこか別の席に移りたいなあと思っただが、下手に席を移つてからまれるのも嫌だから——ヤクザつてそういうのにすごく敏感なのだ——そのまま我慢してずっとそこに座っていた。

とか何とかやつてるうちに夜も更ふけてきたのだけれど、なにしろ古い列車で窓が開け放しになっているものだからどうしても蚊が車内に入ってくる。ヤクザのおっさんもはじめは手でぴしゃぴしゃやつていたが、とてもじゃないけどらちがあかない。それでどうしたかというとき眠っていた情婦をたたき起して二人で延々と煙草たばこを吸い始めたのである。どうも蚊取線香のかわりらしい。効果があるのかどうかよくわからないが、まあアイデアではある。ヤクザつていろいろなことを考えるんだなあと思つて感心して見てたら、今度は僕に向つて「お



い、にいちちゃん、お前もどんどん吸え」と言つてロング・ピースを一箱くれた。どんどん吸えつたつて、僕はまだ十六で煙草なんか吸つたことない。でもどうみても断れる雰囲気ふんいきではない。情婦の方なんか真剣な顔つきで次から次へと煙草を吸っている。

結局僕も一晚煙草を吸いつづける羽目になった。おかげで頭は痛むし寝不足になるし、もう無茶苦茶である。本当にヤクザは困る。関係ない話だけど、このあいだプールに泳ぎにいったら、イレズミをした肩にボートハウスのトレーナーをひっかけてサーフ・パンツをはいたヤクザのお兄さんがいた。こういうのも困る。湯村輝彦ゆむらひろひこと片岡義男かたおかよおとヒューマン・リーグが好きななんていうヤクザがいたりしてもちよつと困るなあ。べつに理由はないんだけど、やはり困る。

体重の増減について

たいして高価なものでないのに、どうも買いつらくて買わずにいるというものがある。僕の場合は体重計がそうだった。いつも買おう買おうと思うのだけれど、実際にデパートなんか行ってみるとデザインが今ひとつ気に入らなかつたり、持って帰るのが面倒になつたりで、つい「また今度でいいや」ということになる。

それに僕の場合60から61キロくらいで体重が安定していて、べつに体に悪いところもないから、どうしても必要というわけではなく、あると便利という程度である。

そういうしているうちに、今年の秋にあるところから体重計をもらった。こういうことがあると、すごく嬉しい。いままで買わずに我慢してきたかいがあつた。だって体重計が二つあつたって仕方ないものね。

で、早速みんなの体重を測ってみた。猫^{ねこ}①が3・5キロ、猫^{ねこ}②が4・5キロ、僕が61キロである。

体重計というのはなかなか面白^{おもしろ}いものである。一度測り出すと癖になつて、僕なんか一日に十回くらい体重計に乗っている。



細かく測っているとわかることだけど、人間の体重は一日のうちで1キロから1・5キロくらい上下する。

当然のことながら食事をすると増えるし、排出すると減る。夜寝る時と朝起きた時とでは1キロ近く体重が違う。それから夏場にキロ五分ペースで5キロ走ると500グラム減り、同10キロで1キロ近く減る。もつともこれは殆ど^{ほとんど}が発汗作用によるものであつて、水分を補給すれば体重はもとに近くなる。

もうひとつ、都会に出て仕事上べつに会いたくない人に会つたりすると1キロやせる。なかなか微妙なものだ。

この秋の僕の最高体重は64キロ、現在は58キロである。基礎的なダイエットと軽いジョギングを一カ月やれば5キロくらいはすぐやせるみたいだから、太り気味で困っている人はがんばるように。